パリ日本文化会館友の会 ハイライトニュース 2018　No.8
MCJP2018 ― No.8 作成日：Friday, September 21, 2018
作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

「ジャポニスム 2018」続報２

フランス式秋の新年度入りとともにフランスでは多くの文化行事が一斉に始まりました。その中でも「ジャポニスム 2018」の関連事業が大きな注目を浴びています。

本号では、皇太子殿下の参加された事業を中心に報告致します。

目次

1. ヴェルサイユ宮殿での能公演　2
2. ヴェルサイユ宮殿での晩餐会　3～5
3. 「若冲」展の特別内覧会　6
4. 歌舞伎公演　7
5. エッフェル塔ライトアップ　8～9
6. 雅楽公演　9～１０
7. 気になる数字　10

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

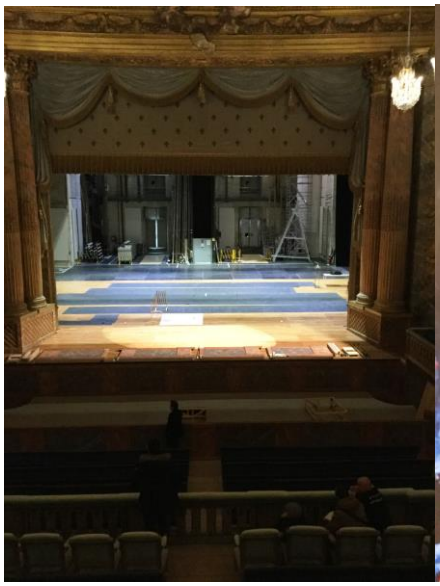
作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

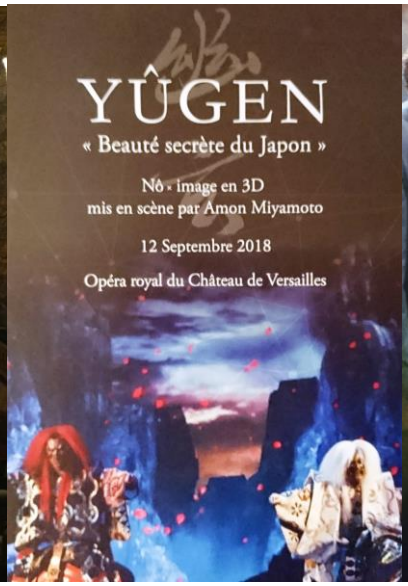
① ヴェルサイユ宮殿での能公演

９月 12 日夕刻、宮本亜門演出による３次元能「幽玄」が「ジャポニスム 2018：響きあう魂」の一環として、ヴェルサイユ宮殿の王室オペラで上演されました。30 分間の短い公演でしたが、伝統能の代表作である「石橋」と「羽衣」を題材にした新作能で、伝統的な能と 3D 映像を融合したユニークな演出でした。

マクロン大統領とフランスを公式訪問されていた皇太子殿下が劇場最前列の椅子にご着席になり、3D メガネを着用されて、ご観劇になりました。

公演を見た招待客の一人は「伝統と革新を融合させた日本らしい素晴らしい演出だった。」と言い、別の一人は「人類は欲張りすぎてはだめだという警鐘にも見えた。」といった感想をもらしていました。





（左）ヴェルサイユ宮殿「円形の間」　（央）「幽玄」のパンフレット　（右）観劇後劇場を退出される大統領と皇太子殿下

（ロイヤルボックス席から舞台を望む；　2016 年 11 月９日撮影）

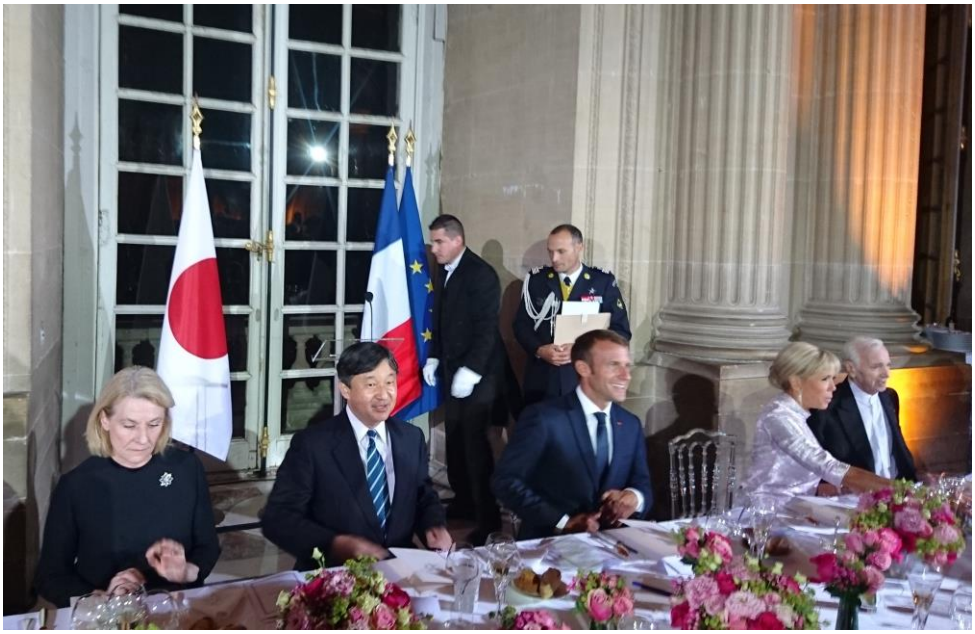
「羽衣」が演じられたのには、深い理由がある、とマクロン大統領は後述する晩餐会で次のように述べました。その理由は「羽衣は美保の松原が舞台であり、その場所はフランスと深い結びつきがあるからです。その地の住民たちは、生涯羽衣伝説に憧れ、踊り続けたエレーヌ・ジュグラリスを偲ぶ碑を建ててくださった。20 年ほど前から毎年忠実に、野外で松明の下、彼女のために羽衣が演じられているのです。彼女の夫のマルセルは、その後日本の専門家となり、その素晴らしい文才でもって、メディアやフランス文化界に日本を紹介する貢献を果たしたからです。」

（参照：https://www.amazon.co.jp/羽衣天女物語-日仏交流の懸け橋）

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

② ヴェルサイユ宮殿での晩餐会

能公演に続いてヴェルサイユ宮殿「礼拝堂の間」でマクロン大統領ご夫妻主宰の晩餐会が行われました。窓辺の長い大きな主賓席（ターブル・ドナール）にはマクロン大統領ご夫妻の右隣に皇太子殿下が着席され、左隣には歌手のシャルル・アズナブールさんが着席、皇太子殿下の右隣にはヴェルサイユ宮殿のペガール総裁が座りました。その５人を挟んで右隣に木寺駐仏日本大使、左隣に同大使夫人が座り、安藤国際交流基金理事長、鈴木主席随員（前駐仏日本大使）等 10 人ほどが陪席しました。主賓席以外の招待客は事前に、瑪瑙、翡翠、ルビー、エメラルド、オニックス、オパール、アイリス、琥珀、ラピスラズリという宝石や色の名前が付けられた９つのテーブルの配置図を渡され、そのうちの赤印のついたテーブルに着席しました。各テーブルは 10 人掛けで、筆者の席は翡翠でした。とっさにパリ日本文化会館が開館当時「セーヌ河畔の翡翠色の館」と呼ばれていたことを思い出しました。



主賓席にご着席された皇太子殿下とマクロン大統領ご夫妻

晩餐会の冒頭、マクロン大統領が歓迎の挨拶を次のように述べました。

「私たちは、フランス人にとっても日本人にとっても思いのある特別な場所にいます。ここでは数年前に新宿御苑の大作り菊展示が開催されました。20 世紀の初めに明治天皇陛下とアンリ・マルチネとの間にあった交流に応えるものでした。この場所が今日ある姿は、日本文明と常に結びついていたからです。・・・この場所に殿下をお迎えすることによって、皇太子殿下と天皇家がその一体性を象徴する日本という国に対する敬意、尊敬と友情を表明したかったのです。殿下をここにお迎え出来るのは、私たちにとっても招待客の皆様にとっても名誉なことです。・・・皇太子殿下、ここで再度、日本を襲った７月の豪雨という試練に対するフランスの支援と友情を表明いたします。また、数日前に北海道で起きた地震による

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

苦難を私たちも悲しく思っています。フランスは、喜びも悲しみも常に日本の方々と共にしており、日本も常にフランスと共にあるということを知っています。両国の友好は『響き合う魂』に基づいており、日本がフランスに贈ってくださった特別な文化イベントであるジャポニスム 2018 がそれをさらに深化させています。・・・世界の均衡を揺るがす同じ課題に直面しながら、私たちは、融和、協力、そして強者の論理ではない、すべての人々への配慮と権利を基盤とした今日の世界秩序の作り手なのです。気候変動対策、格差問題対策、平和と安定のために、我が国は日本政府とともに常にこの方向へ向けて行動しています。来年はそれぞれが G7、G20 の議長国を務めることから、大きな責任を共に担うことになります。・・・ジャポニスム 2018 は、この限りなく続く絆、歴史、発見を更に深めるに違いありません。特別なプログラムが用意されています。今まで国外に一度しか出たことがない宮内庁所有の若冲の作品 30 幅がそうです。これらの今までになく素晴らしい生き生きとした遺産を目にする機会を、フランスに与えてくださったことに熱く御礼申し上げます。ジャポニスム 2018 に我々も呼応すべく、日本で 2021 年にフランス関係のイベントを開催することを決定しました。オリンピックを迎える東京とパリを繋ぐものとなるでしょう。ちょうどその年は、ポール・クローデルが日本に着任してから 100 周年となる年です。ポール・クローデルの娘は、父親は、花の香を嗅ぐように、日本を胸一杯に吸い込んだと言っていました。私たちは、両国の絆が更に発展し続けることを望んでいます。それは我々の遺産であり、歴史であり、時の中の苦難に対する力でもあります。日本国民の幸福と繁栄を祈り、御列席の皆様、皇太子殿下のために。そして日仏両国の国民の友好を祝し、グラスを揚げましょう。」

これに対し皇太子殿下は次のように答礼されました。

「はじめに私と日本国民に対して示していただいた親愛と連帯の情に大変心を打たれました。心から感謝いたします。このたび、日仏友好 160 周年という節目の年に初めてフランスを公式訪問できましたことを嬉しく思うとともに、ご招待いただいたフランス政府に対し感謝申し上げます。また、マクロン大統領閣下に対し、ヴェルサイユ宮殿で晩餐会を開催して頂いたことに感謝いたします。また温かい歓迎のご挨拶にお礼を申し上げます。・・・今回日仏外交関係樹立 160 周年の節目の機会に、こうして再び美しい初秋のリヨンやパリを訪問することができたことに加え、初めてブルゴーニュ地方やグルノーブルを訪れることができたことは、私にとって大変大きな喜びです。フランスは美食の国や芸術の都として有名です。・・今回各地方の訪問を通じて、フランスが多様性に富む国であるという印象を改めて強く抱きました。本日の午後にはヴェルサイユ宮殿に来る前、リュクサンブール公園を秋の昼下がりを家族連れて楽しむフランス国民の皆様と触れ合うことが出来ました。また一方、ヴェルサイユ宮殿では、マクロン大統領閣下、令夫人ご臨席の皆様とともに宮本亜門さんの３D 技術を用いた演出で日本の伝統芸能になる能を鑑賞し、まさに伝統と革新が融合した方法で、能の幽玄の精神に触れる機会を共有できましたことを嬉しく思います。文化芸術を愛する日仏両国の国民がその魂を響き合わせることのできた素晴らしい時間であったと信じます。本年は 1858 年に日仏修好通商条約が締結されてから 160 年になります。19 世紀後半、日本が明治以降の近代化を進めるにあたって、フランス軍が大きな役割を果たしたことは広く知

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

られており、特に 2014 年に世界遺産に登録された富岡製紙場はフランス技師や職人の指導により建設されたものです。今回の訪問では、リヨンの織物博物館を視察しましたが、富岡製紙場で紡がれた絹がフランスに輸出されるなど日仏の絹を通じた交流の深さを改めて実感しました。皇后陛下が引き継がれている皇室のご養蚕とその絹糸で織った古代絹を紹介する「蚕--皇室のご養蚕と古代絹、日仏絹の交流」展が 2014 年 2 月パリで開催されましたが（筆者注：パリ日本文化会館で開催）、ご覧になった方もおいでになると思います。この他にも日仏は 160 年の歴史の中で、文化、芸術、経済、政治、科学技術、地球環境、教育など、実にさまざまな分野でもって交流と協力を重ねてきました。私自身、今回のフランス滞在の中で、様々な分野で日本と手を携えて活躍されているフランス人の方々や、このフランスの土地に根を張り、目覚ましい活動を行っている日本人の方々から直接お話を伺え、長い歴史の中で両国民がまさに絹を紡ぐようにして織りなしてきた強固な友好関係を実感しております。リヨンとパリでは日本語を学習する若いフランス人学生やフランスで学ぶ日本人の小中学生とお話しする機会を得ました。これらの日仏の友好関係の将来を担う若い世代のそれぞれの国に対する深い関心に触れ非常に心強く感じました。現在、パリを中心に開催中のジャポニズム2018の機会を通して日仏間の交流がさらに飛躍し両国民の絆がますます深まることを期待しております。この場をお借りして日仏の交流を支えてこられたご臨席の皆様のたゆまない努力に敬意を表したいと思います。

（この後、殿下はフランス語でご挨拶）

料理メニューは、アントレがオマールえびのフィーヌ・ジュレ、カリフラワー添え、メインはブレス地方産鶏肉のきのこ添えとじゃがいものピューレ、続いてサラダとチーズ、そしてデザートは結晶化したスミレ添えアイスクリームの赤と黒の冷製フルーツ庭園でした。ワインは 2015 年クロ・ド・ラ・ムシェール製プリニーーモンラシェ・プルミエール・クリュ（アンリ・ボイヨ）、2010 年ムートン・ロスシルド製ル・プチ・ムートン（ポイヤック）、シャンパンはローラン・ピエール・グラン・シエクル。

晩餐会の料理

晩餐会終了前のヴァイオリン演奏に聴き入る招待客

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

③「若冲」展の特別内覧会

９月 13 日午後パリ市プチパレ美術館で「若冲」展の特別内覧会と裏千家による呈茶が行われました。皇太子殿下も両行事にご参加になりましたが、同行したのはごく少数に限られていましたので、中の様子はお伝えできません。

その後、呈茶に参加した賓客らとともに「若冲」展会場に入りましたが、若冲の作品の部分図が 21.4 メートルの通路に参道のように鳥居状に並べられて（左下写真）、その下をくぐって会場に到達する仕掛けになっています。プチパレ美術館のルリボー館長の当初からのアイディアですが、雰囲気づくりに成功しているといえます。

700 平方メートルの長方形の会場に入ると「釈迦三尊像」（相国寺所蔵）３幅を取り囲むようにして「動植綵絵」（宮内庁三の丸尚蔵館所蔵）３０幅が展示されています。通常であればその両側に空想上の鳥「老松白鳳図」と「老松孔雀図」が展示されるそうですが、今回は「釈迦三尊像」の両脇に凸部があるため、その両幅は「釈迦三尊像」の対面に飾られています。この 33 幅は釈迦の前では人間も動植物もみな平等であるという仏教思想を表しています。鶏たちの顔には若冲の周りにいた人たちをカリカチュアライズした表情がみられるとのことです。魚貝図にはお化けのように見えるものが紛れ込んでいます。写実の中にところどころユーモアが垣間見られます。

数年前に修復が施された作品は照度 100 ルクスの中でも非常に鮮やかな色彩を放って、来場者をまず感嘆させます。若冲を初めて見たフランス人の中には感激のあまり「非常に素晴らしいものを日本から贈ってもらった。ありがとう！」と筆者にまで礼を述べる人がいました。

2016 年に東京で展示された際には 46 万人の来場者があったそうですが、パリでも大勢の人が押し寄せています（写真右下）。

「若冲」展会場へ向かう通路（９月 13 日）

「若冲」展会場（2018 年９月 15 日）

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

④ 歌舞伎公演

「若冲」展の会場で一般ヴェルニッサージュが始まる頃、トロカデロにある国立シャイヨー劇場では歌舞伎公演が始まろうとしていました。開演前に皇太子殿下をお迎えするため、歌舞伎役者の中村獅童丈と中村吉之助丈がホワイエに立ってお待ちしていました。左下の写真はその時のスナップです。

挨拶に立つ中村獅童丈と七之助丈

十三世家元・田中傳左衛門さんによる一番太鼓

第十三世家元・田中傳左衛門さんによる一番太鼓が館内に鳴り響くと、いよいよ公演開始です。演目は「かさね」と「鳴神」。この２演目は 1986 年に片岡孝夫丈（現仁左衛門）と坂東玉三郎丈がフェスティヴァル・ドートンヌ演劇祭で上演したものと同じものだそうです。当時見たフランス人も少なくない筈です。今回初めて目にする人も多い筈です。前回がそうであったように、今回も、観客一人ひとりの胸に本公演の思い出が深く刻まれ、長く残るのではないかと思います。

出演者による終演後の挨拶

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

作成者：館長　杉浦 勉　t.sugiura@mcjp.fr　https://www.jpf.go.jp/mcjp/member/news.html

⑤ エッフェル塔ライトアップ点灯式

一幕目の「かさね」が終わったところで、普段の公演時より若干長めの幕間となりました。その間にホワイエで皇太子殿下によるエッフェル塔のライトアップ点灯式が行われるからです。

シャイヨー劇場のホワイエはエッフェル塔を望んで全面ガラス張りになっています。ホワイエの中央に招待客たちが誘導され、両脇の空間には一般来場者もいて、皆一緒に点灯式を見学することが出来ました。

御休所で少しご休憩されてからホワイエにご登場された皇太子殿下が、司会の読み上げるカウントダウンの後、タイミングよくボタンを押すとエッフェル塔の照明が一瞬消え、その後すぐに薄い青色に染まって、下から赤い日の丸がゆっくりと塔の頂上へ向けて移動していき、やがて夜空へ消えて行きます。それから鮮やかな赤、フランス国旗の３色の筋が左右に動き始め、エッフェル塔がボレロの曲に合わせて踊っているように見えます。その後、青一色に染まったり、虹色に染まったり、雪の結晶のような光が降りてきたり、遺伝子の螺旋状の鎖のような光が現れたり、エッフェル塔が様々な表情を見せて６分ほどの第一部が終了、その後一旦光が消えてから新たに黄金色に染まり、エッフェル塔の下半分に尾形光琳のカキツバタ図が映し出されました。これは根津美術館のご好意で特別に映像の使用が許可されたとのことでした。こうしてワンサイクル 10 分のライトアップショーが３分ほどのインターバルを挟んで深夜まで繰り返されました。

エッフェル塔照明点灯ボタンを押された皇太子殿下　写真 ©Jean Couturier

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

このライトアップを演出したのは照明アーティストの母娘、石井幹子さんと石井リーサ明里さんです。これまで世界中の多くのモニュメントのライトアップを手がけてきた石井さんにとっても今回のエッフェル塔が最大規模だったそうです。筆者も当初からパリ市当局との交渉に関わってきましたが、最初はエッフェル塔は隙間だらけの特殊な構造なので、このような複雑なライトアップは今までやったことがないし、成功例もないとして、パリ市の技術責任者は消極的でしたが、今年３月の試験照射を見てからは非常に協力的になり、本番当日、セキュリティの面から今まで消したことのない塔頂のサーチライトを特別な配慮から消してくれるまでになりました。

翌日を含め２晩実施したライトアップが成功裏に無事に終わって一番ホッとしたのは石井さん母娘ではないかと思います。

日本色に彩られたエッフェル塔

⑥ 雅楽公演

皇太子殿下が来仏される一週間ほど前、９月３日にパリ市北東部のフィルハーモニー・ド・パリで宮内庁式部職楽部の一団による雅楽公演が行われました。宮中で演奏される神聖な音楽で、その起源は平安時代に遡ります。2009 年にユネスコの人類無形文化遺産に登録されました。

宮内庁式部の楽部は千年の歴史がある雅楽の中でも最も伝統があり、管弦、舞楽、歌謡のいずれも演ずることができます。古代アジアの儀式に遡る要素を吸収した雅楽は、国内外の音楽家たちの注目を浴びており、「世界最古のオーケストラ」と言われています。

豪華な衣裳、独特の足運び、気持ちを和らげるような管弦の音色、古代中国の劇を彷彿とさせるようなマスクなど、フランスの人々にはすべてが驚きであったに違いありません。

観客の一人は「雅楽公演を見て（その素晴らしさに）ひっくり返った。」「日本は革新的なものを生み出す一方で、千年も前のものをそのまま伝承している世界でも稀な国だ。フランスにも古くから伝わるものはあるがここまでのものはない。」という感想を興奮気味に漏らしていました。

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。

その後、筆者は首席楽長の東儀博昭さんからフランス人の反応がどうだったかを聞かれましたので、そのことをお伝えすると、「すてきな表現ですね。嬉しいことです。」と述べていました。

パリ公演後、ストラスブールでも同様の公演が行われましたが、同地でも満席となり、大好評であったとのことです。

雅楽公演が行われたフィルハーモニー・ド・パリのホール

⑦ ジャポニスム 2018：　気になる数字ー展覧会入場者数

- 「teamLab」展（ラ・ヴィレット）　302,000 名（5/15～9/9）終了
- 「池田亮司」展（ポンピドゥーセンター）　79,400 名（6/15～8/27）終了
- 「子供の時代展」（パレドトーキョー）　110,000 名（6/22～9/9）終了
- 「深みへ」展（ロスチャイルド館）　36,500 名（7/14～8/21）終了
- 「井上有一」展（パリ日本文化会館）　11,600 名（7/14～9/15）終了

以上

注記：本稿で意見に相当する部分は筆者の個人的見解を述べたもので、筆者の所属する組織の統一的見解ではありません。本稿に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰するものとします。なお、撮影者の記載がない写真は筆者が撮影したものです。